

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	<b>53</b>	実施計画番号	109	
事務事業名	十和田湖ひめますの安定供給		事業開始年度	17
担当課名	とわだ産品販売戦略課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業			
背景や経緯等	平成17年度に策定した地域再生計画「十和田湖観光再生計画」において、県、市、漁協等関係機関が連携し、十和田湖ひめますを安定供給するための貯蔵施設導入について検討してきた。			
事務事業の目的	十和田湖ひめますの安定供給を確立する。			
実施状況	漁協において、冷凍技術に係る研修を行い、冷凍冷蔵設備導入を検討中。また、市の「十和田湖ひめますブランド力向上事業」を通じ、各飲食店のひめますメニューのコンサルティングを実施し、評価と改善を行った。			

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	2	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	4,320	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)		0	1,072	3,510
うち一般財源			1,072	3,510
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

### 【指標】

活動指標	活動指標名①		貯蔵施設整備に係る状況把握及び冷凍技術等の研修			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	実施回数		回	1	1	1
	活動指標名②		販売促進キャンペーンの実施			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
実施回数		回	0	1	2	
成果指標	成果指標名①		加工用「十和田湖ひめます」の利用量			
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度
	加工品利用量		t	目標値	3	3
			実績値	2	1	
			達成度(%)	67%	33%	
	成果指標名②		「十和田湖ひめます」の湖畔地区販売数量			
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度
	湖畔地区販売数量		t	目標値	6	6
実績値			6	5		
達成度(%)			100%	83%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	53
計画No	109

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 ひめますのブランド化による観光客の誘致の促進など地域産業の活性化が期待される。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地 3 / 6 ブランド化への取組みは図られているものの、高鮮度を保持した状態での供給について冷凍技術の導入等の対応がなされていない。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 早期に冷凍技術等の導入を具現化させる必要がある。漁協の体力に見合う、施設の整備が必要。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 十和田湖畔を活性化させることにより十和田市の観光客誘致等が期待されることから、受益の対象は広く偏りは無い。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
					現在の適性	16 / 20	改善の余地	4 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由	高品質・高鮮度状態の十和田湖ひめますの安定供給の方策を早急に検討する必要がある。
今後の具体的な取組方策と狙う効果	冷凍貯蔵施設の検討・導入を進めるほか、「十和田湖ひめます」の地域団体商標登録を目指し、ひめますの魅力を向上させて、観光振興に寄与する。